

そのことに気づき「うちでもぜひITを活用・導入したい」と実感してもらえればうれしいですね」と近江氏は語る。

さらに「今回は基礎講座でしたが、応用講座も開催し、さらなる効果を生み出したい」と次の経営者向け講座の開催に向け意欲を示していた。

この考えを持ち帰って 多くの人と共有していきたい

講座の参加者からも話をうかがうことができた。

「株式会社不動産中央情報センター」の業務革新部門に所属する吉山浩氏は、FAISのメルマガで講座を知って参加を申し込んだ。日々、IT化や業務の見直しを行っており、「経営目線のIT化」という講座だったので参加してみようと思ったと言う。

「率直に言ってとても楽しかったです。そして、非常に面白かったです。役割が明確に与えられ、それがひとりでは完結できないという設定が特に良かったです。みんなで取り組んでいくという一体感がありました」

リアルに数字が動いたり、製品も動いたりして、さらにコミュニケーションも必要になるという設定は、本当の会社のように感じたと言う。

そして、講座に参加してみて、気づきもあったと吉山氏は語る。

「IT化することで業務が見えてくるので、業務の見える化の重要性を感じました。誰が何をしているのかが瞬時に分かるようになると、生産性が上

がると思いました。この考えを会社に持ち帰って、どんな会社にしていけばいいのかを多くの人で共有していきたいと思っています」

いろいろなワークショップに参加しているという吉山氏だが、「その中でも特に面白かった」とこの講座を高く評価している。

ITコーディネータにとっての マーケティンググッズに

さらに、この講座に講師として参加したITコーディネータの声も聞いてみた。

まずは、中小企業の経営コンサルティングを手かっている野村真実氏から。野村氏は最近、「一般社団法人中小企業IT経営センター」の業務として、全国で中小企業の支援をしている中小企業診断士やITコーディネータなどに中小企業支援の方法を教育する活動が多くなっていると言う。

そんな野村氏は、以下のようにこの講座を評価する。

「ITの利活用に困っている中小企業は、全体の3、4割くらいあると思います。そのような会社にはこの講座はちょうどいいと思います。今まではITのトレンドを紹介するような講座が多く、「ITを経営の力にする」というベタでストレートな講座が意外となかった。この講座の方針を最初に聞いた

ときは『今さら?』と思いましたが、やはりそこはITC協会ならではの、しっかりとやるべきところだと思っています」

ビジネスゲームで学ぶというスタイルについては、「ゲーム形式は“コト体験”で、



ビジネスゲームで学ぶ「ITを経営の力とするポイント」の開催風景

印象に残る時間を過ごせると思います。また、対話を生み出すゲームは右脳を使っているので忘れにくいという利点があるのです」と野村氏は言う。

もうひとりの講師は荒添美穂氏。「有限会社インテリジェントパーク」の代表取締役として中小企業の経営コンサルティングを主に行っており、国や県などが開催する講座に年間80件ほど参加して、その講師を務めているという講師のプロでもある。

その荒添氏も「どういう情報を、どのタイミングで、どのように共有したらいいのかわかる。それを実感できる講座だと思います。この講座は経営者の方にはもちろんですが、社内教育にも生かせるのではないかと考えています」と講座の内容を高く評価している。

そして「このビジネスゲームは、ITを全面に出して攻めるのではなく、上手に心を揺さぶるようなところがいいですね。ITコーディネータにとってのマーケティンググッズとして活用するのも良いと感じています」と荒添氏は語っている。

団体概要

公益財団法人北九州産業学術推進機構(FAIS)
北九州市若松区ひびきの2-1
<https://www.ksrp.or.jp/fais/>

ITコーディネータ

一般社団法人中小企業IT経営センター
代表理事 野村真実氏
<http://www.it-keiei.or.jp/>

ITコーディネータ

有限会社インテリジェントパーク
代表取締役 荒添美穂氏
<http://www.int-park.jp/>



ITコーディネータ 野村真実氏



ITコーディネータ 荒添美穂氏